

検証アンケート調査から見える認証評価の日韓比較

金 性希 (大学改革支援・学位授与機構)

A Comparative Study of University Evaluation based on Verification Questionnaire Survey

* S. Kim (National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education)

概要 本研究は、日韓の機関別認証評価機関である大学改革支援・学位授与機構と韓国評価院が認証評価後に実施する検証アンケート調査の結果を分析したものである。比較可能な共通・類似する項目と固有項目を明らかにし、認証評価に対する日韓の評価者と対象校の認識の差を示したものである。

キーワード: 機関別認証評価, 検証アンケート調査, 日韓比較, 評価者と対象校の認識

1 研究背景と目的

日本の大学改革支援・学位授与機構（以下NIAD-QEと略す）と韓国の韓国評価院（以下KUAIと略す）は、両国における政府の認証を受けた評価機関として大学を対象に機関別認証評価を実施している。大学評価における日韓比較研究のこれまでの関心は、政策の変遷¹⁾、評価システム等²⁾に止まっており、認証評価後の評価システムに関する改善に着目した研究は皆無といえる。本研究は、NIAD-QEとKUAIが認証評価実施後に行う検証アンケート調査結果を比較分析して、類似点及び相違点における日韓の評価者と対象校の認識を明らかにすることを目的とする。

2 研究方法

NIAD-QEとKUAIは、それぞれが2005年、2011年から認証評価実施後に評価者と対象校を対象に検証アンケート調査を行い、評価の有効性及び適切性を検証して改善点を把握している。両機関の分析対象は第2サイクル中に実施したアンケート調査結果のうち5段階尺度の設定である。用語整理を行ったうえ、共通・類似する項目と特徴的な（固有）項目の平均値と割合を合成変数として算出した。

3 研究結果

3.1 共通・類似する項目：評価者

評価者を対象にした調査からは「評価基準」「研修」「評価運営」「評価全般」について比較分析した。これらすべてにおいてNIAD-QEに比べてKUAIの平均値が高く、特に“強く思う”と回答した割合は2倍以上高い結果である（Fig.1）。

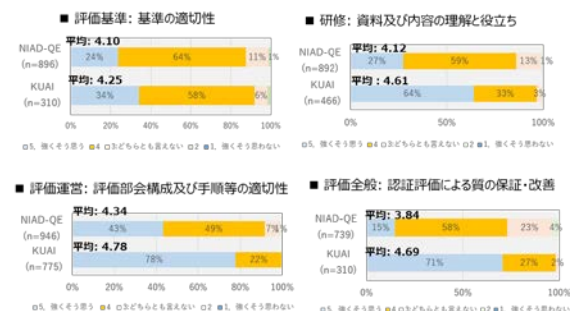


Fig. 1: 評価者における共通・類似する項目。

3.2 共通・類似する項目：対象校

対象校の回答からは「評価基準」「研修」「認証評価説明会」と「評価者の構成と専門性」について、KUAIがNIAD-QEに比べやや高いものの、その差はわずかである（Fig.2）。認証評価を受ける日韓の大学担当者の認識はそれほど大きな差はないといえよう。

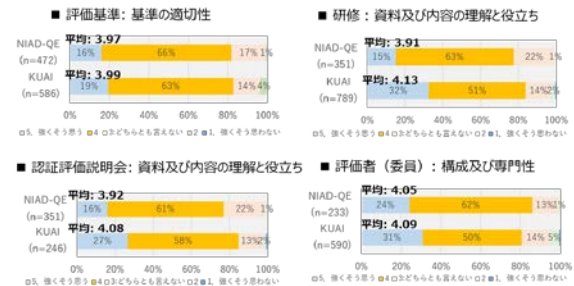


Fig. 2: 対象校における共通・類似する項目。

3.3 両機関の固有項目

NIAD-QEは評価者（平均3.37）と対象校（平均3.25）に前回実施した評価の効果・影響について問うている。さらに、対象校には自己評価を実施した効果・影響（平均3.62）と認証評価を受けたことによる効果・影響（平均3.61）について問うている。一方、KUAIの調査では評価者を対象に、評価に臨む姿勢と専門性等に関する自己評価（平均4.75）と同僚評価（平均4.55）を問うており、両者とも非常に高い評価をしていることがわかる。上述した共通・類似する項目におけるKUAIの評価者の平均値が高かった結果を総合的に考察すると、韓国における1) 認証評価の評価者としての活動で得られる学内のprestige、2) 他の行事の外部監督者等を務めるより多少高い謝金、3) 評価経験が今後のキャリアパスにポジティブに働けるという期待といった要因が背後にあると考えられる。

参考文献

- 1) Y.Lee : Japanese University Assessment Policy Change and Improvement Tasks, 韓国日本教育学研究, 18-2, 81/96 (2014)
- 2) Y.Han, I. Chung : A Comparative Study on the University Evaluation System in Korea and Japan, 比較教育研究, 15-3, 79/108 (2005)